

現状・課題と今後の方向性 (温もりのある社会・人づくり部会)

- 医療提供体制
- 少子化対策
- 高齢者対策
- 健康（予防）
- 障害者福祉
- 動物愛護
- 女性活躍
- 人権
- 教育（人材育成、学力、人づくり、教育環境）

社会経済動向（概要） - 温もりのある社会・人づくり部会

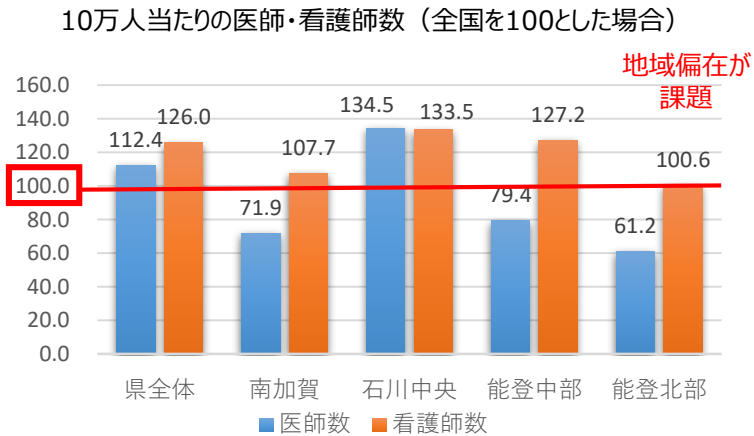
	各分野の状況（国の動向等）	今後の見通し
医療	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医師の時間外労働の上限規制がR6より適用開始 ✓ <u>人口構造の変化や新興感染症への対応</u>も踏まえた第8次医療計画（R6～R11）の策定に向け、準備中 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医師の働き方改革や今後の人口構造の変化に対応した<u>質の高い効率的・効果的な医療提供体制</u>の検討が必要
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>2020年の合計特殊出生率は1.33と、人口維持に必要な水準の2.07を大きく下回る状況</u>であり、少子化・人口減少が進展中 ✓ 各省に分散していた<u>こども政策を一元的に推進</u>するため新たに<u>こども家庭庁を創設</u>（R5.4～） ✓ こども・若者育成支援の総合的な推進のため、既存の白書・大綱を一体化したこども大綱を作成予定(R5以降) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現在の合計特殊出生率が維持される場合、今後も人口減少は進展 ✓ <u>女性の社会進出やテレワークの普及など働き方等の変化を踏まえた子育て政策</u>の必要性が増大
社会保障・社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>平均寿命・健康寿命ともに上昇傾向</u>にあるが、健康寿命の方が約10歳程短い ✓ 人口減少の中、85歳以上人口は増加傾向にあり、<u>高齢化が急速に進展</u>するとともに、<u>高齢者の単身世帯も増加</u> ✓ <u>医療・福祉等の担い手となる現役世代の急減等</u>を踏まえ、第9期介護保険事業計画（R6～R8）に向け、介護人材確保対策について議論 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後少子高齢化・人口減少が進展し、<u>社会保障給付費が増大</u>する一方、<u>医療・福祉等の人材不足</u>が拡大 ✓ 高齢者が<u>要介護・要支援状態になることを防止するための取組み</u>や、<u>元気な高齢者が社会や地域で活躍できる環境整備</u>の必要性が増大
教育	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新学習指導要領が全面実施され、小学校段階でのプログラミング教育必修化等、<u>情報活用能力が重要視</u> ✓ GIGAスクール構想による教育ICT環境整備が進み、「<u>個別最適な学び</u>」と「<u>協働的な学び</u>」の実現を目指す ✓ ウィズコロナを見据え、超スマート社会（Society5.0）やウェルビーイングの観点を踏まえた次期教育振興基本計画が審議中 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>あらゆる分野でのデジタル化の推進</u>に伴い、情報活用能力の重要性が増大 ✓ 少子化や、地域の人口偏在等の進行に伴い教育サービスの提供体制の構築の必要性が増大

現状・課題と方向性のイメージ – 医療提供体制

【現状・課題】

- ① 医師・看護師数は、県全体では全国平均を上回るが、現場の人手不足感や、地域偏在（能登北部は医師少数区域）が課題。これまで修学資金貸与や勤務環境改善策等の支援を実施
- ② R3年6月に輪島病院で発生した医療事故を受け、市町・大学・病院等の関係者からなる「赤ちゃん協議会」を設置し、県下全域での質の高い医療提供体制の確保や地域偏在の解消を図る

<医師・看護師の偏在指標>



<国の動向>

- ・医師の時間外労働の上限規制の適用開始（R6～）
- ・医療法の改正により、第8次医療計画（R6～R11年度）の記載事項に「新興感染症等の感染拡大時における医療」等が追加

	全国		石川県
	H19	R3	R4
分娩数	354,370件	339,545件	2,616件
分娩取扱病院数	1,281病院 (回答794)	985病院 (回答715)	15病院
うち常勤医師 2名以下の病院	278病院・ 32.6%(H20)	96病院・ 13.4%	9病院・ 60%
1病院あたり分娩数	446件	475件	174件
産婦人科常勤医師数	3,601人	5,308人	61人
1病院あたり 常勤医師数	4.5人	7.4人	4.1人
常勤医師1人 あたり分娩数	98件	64件	43件
勤務 環境	勤務時間	52.1h/週 (H20)	46.9h/週 (R3)
	当直回数	6.3回/月	6.4回/月 (R3)

(出典：石川県地域医療推進室調べ)

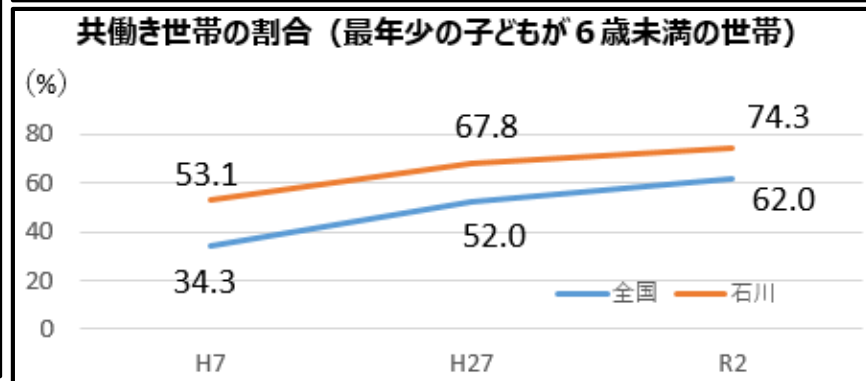
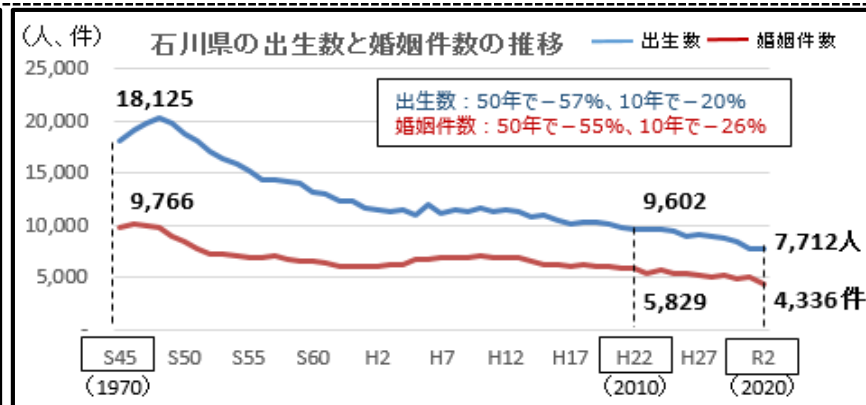
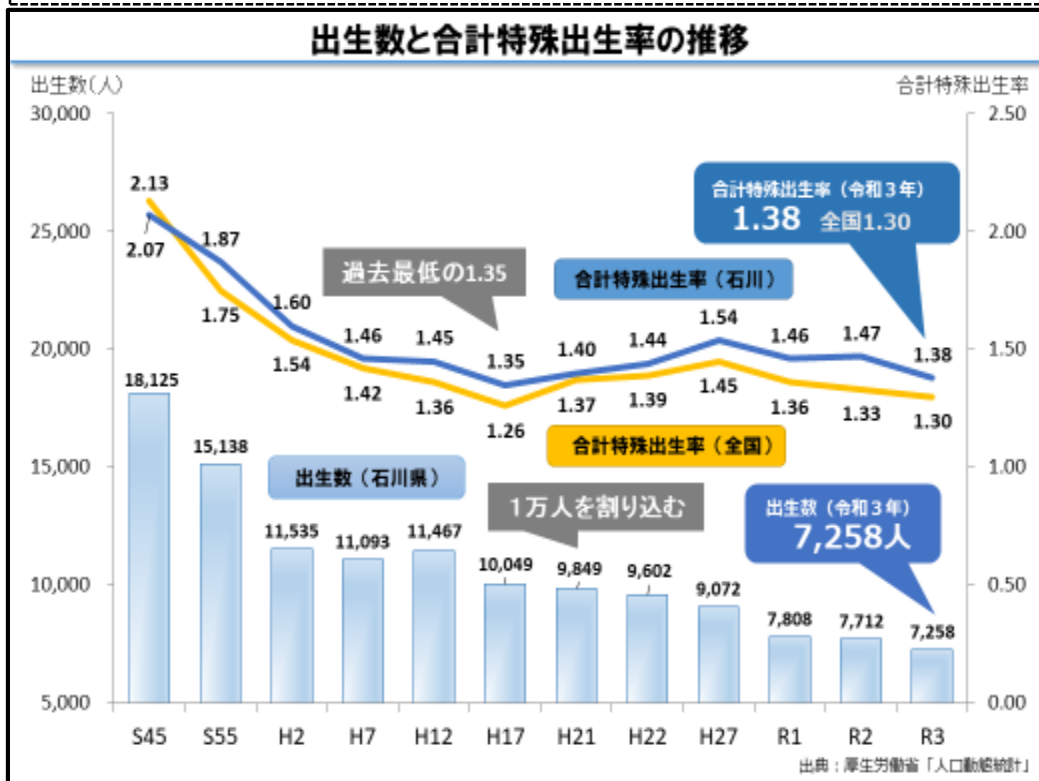
<方向性のイメージ>

必要な医療がしっかりと提供される地域社会づくり

現状・課題と方向性のイメージ – 少子化対策

【現状・課題】

- ①「いしかわエンゼルプラン2020(R2～R6)」に基づき、結婚から妊娠・出産、子育てまで様々な支援を実施しているものの、出生数（R3:7,258人）、合計特殊出生率（R3:1.38）ともに低調に推移
- ②婚姻件数減が出生数減に直結するため、結婚支援の更なる充実とワークライフバランスの推進が必要



- <国の動向>
- ・全国の令和3年の合計特殊出生率は1.30と、人口維持に必要な水準の2.07を大きく下回る
 - ・令和5年4月から「こども家庭庁」が設置され、こども施策の基本理念を定めた「こども基本法」が施行

<方向性のイメージ>

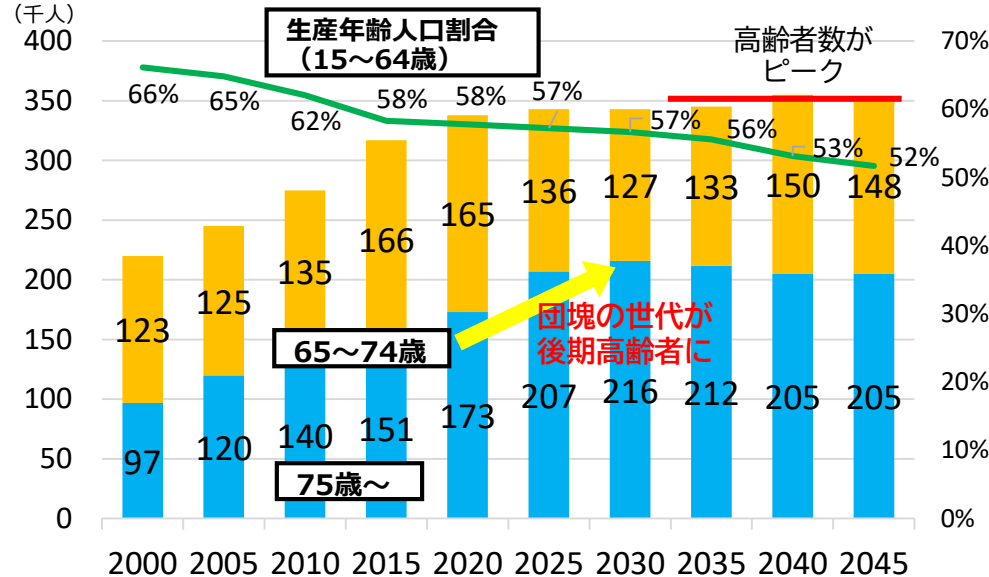
安心して子どもを産み育てることができる社会の実現

現状・課題と方向性のイメージ - 高齢者対策

【現状・課題】

- ①団塊の世代が後期高齢者となる2025年(R7)には、介護ニーズが増加、多様化することから、
 - ・高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための地域包括ケアシステムの構築
 - ・2025年に必要となる介護人材2万3千人の確保に向けた取り組み
 等を進めてきた
- ②2025年以降も、高齢者人口のピークと現役世代の急激な減少が重なる2040年に向け、
 - ・地域包括ケアシステムの深化や介護予防・重度化防止の推進による「長寿の質の向上」
 - ・データを活用した介護ニーズの可視化やエビデンスに基づく介護サービスの提供による「介護の質の向上」
 - ・外国人材の活用、勤務環境の改善、人材育成による「介護を支える人材の量と質の確保」
 を推進

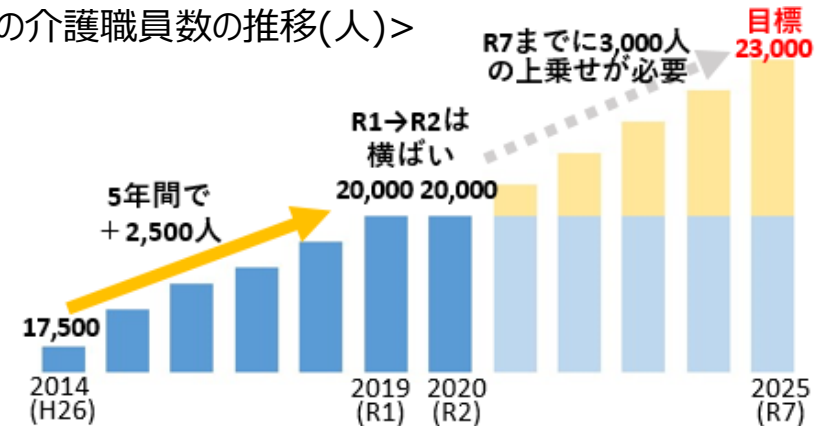
<本県の前期・後期高齢者数と生産年齢人口割合の推移>



<本県の有効求人倍率>

年度	H30	R4(9月)
介護業界	3.85倍	4.42倍
全産業	1.99倍	1.69倍

<本県の介護職員数の推移(人)>



<国の動向> 第9期介護保険事業計画(R6~8年度)に向け、介護人材確保対策等について議論

<方向性のイメージ>

高齢者が安心して暮らせる社会づくり

現状・課題と方向性のイメージ — 健康（予防）

【現状・課題】

- ①・人口減少の中、85歳以上の人口は増加傾向にあり、高齢化が急速に進展
 - ・平均寿命・健康寿命は上昇傾向にあるものの、依然、健康寿命との乖離（約10歳程）が課題
- ②・投薬治療のみではコントロールが難しい生活習慣病等の予防対策が、引き続き、重要
 - ・県民の生活習慣など、データに基づき地域の実情を可視化し、「いしかわ健康フロンティア戦略（R5年度改定予定）」に基づき的確なアプローチを推進

<石川県の状況>

人口比 (%)	H25			R2 (速報)			状況
	石川	全国	順位	石川	全国	順位	
特定健診受診率	42.4	34.2	5位	40.2	33.7	10位	良
メタボリックシンドローム (H26)	18.4	16.6	7位	24.2	20.8	4位	悪
糖尿病(HbA1c6.5以上)	9.11	7.99	6位	12.3	9.88	2位	悪
高血圧(SBP140以上)	20.2	23.1	44位	24.5	26.6	41位	良
脂質異常(LDLc140以上)	24.3	29.3	43位	21.9	28.6	47位	良

メタボリックシンドローム及び糖尿病は、投薬治療のみではコントロールが難しい

(出典：国保中央会)

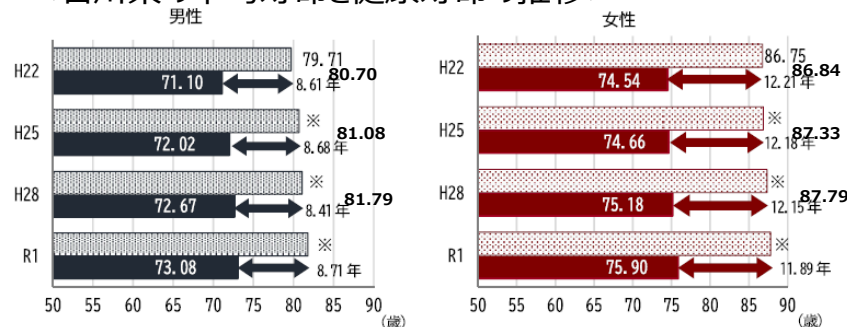
(県民健康・栄養調査の実施)

R5年度のいしかわ健康フロンティア戦略改定に向け調査を実施中

<国の動向>

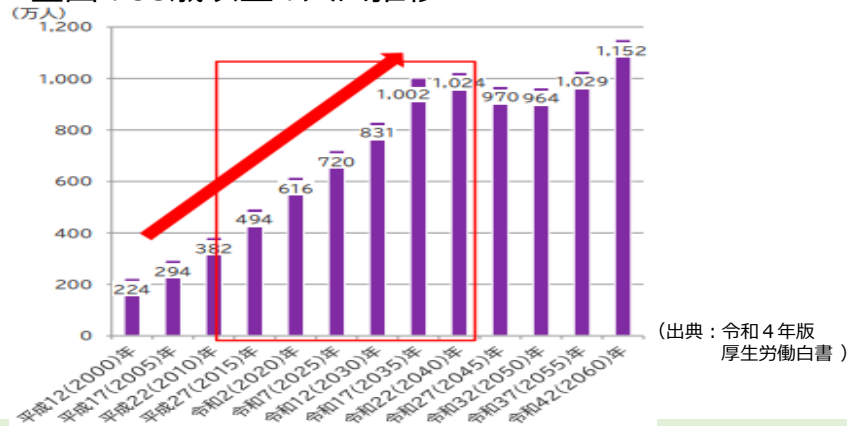
- ・次期国民健康づくり運動プラン（令和6年度～）策定に向けた検討を開始（R4.9.26第1回専門委員会開催）

<石川県の平均寿命と健康寿命の推移>



※H25、H28、R1は平均寿命が未公表のため、厚生労働科学研究所算出の数値を使用

<全国の85歳以上の人口推移>



(出典：令和4年版厚生労働白書)

<方向性のイメージ>

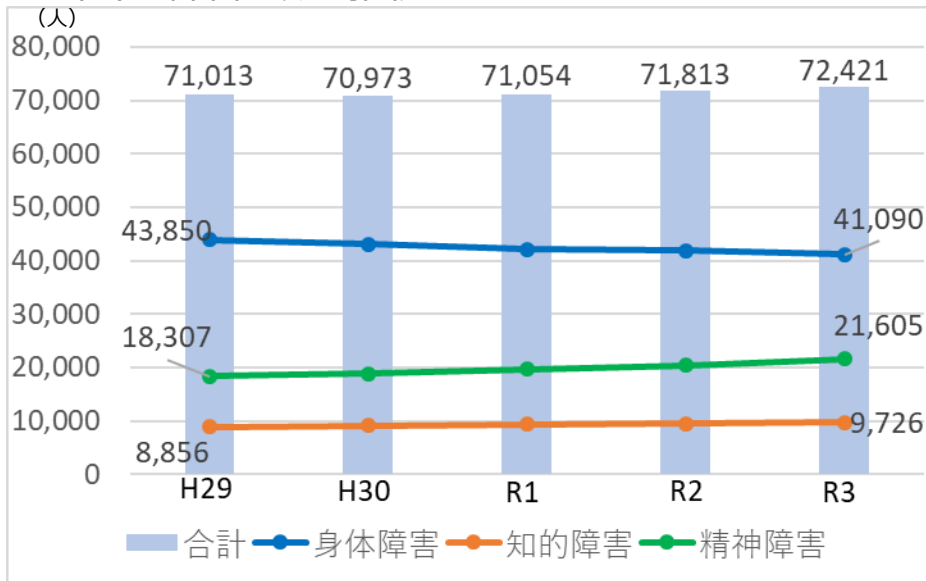
元気で自立して暮らすための健康づくり

現状・課題と方向性のイメージ – 障害者福祉

【現状・課題】

- ① 障害の有無に関わらず、共に暮らしやすい地域社会の実現に向け、就労支援や文化芸術活動の促進、先進的なモデル団体の認定など、障害者の自立と社会参加の促進に向けた様々な施策を実施
- ② 本県の障害者数は、近年横ばいで推移しているものの、障害の種別によりその特性は様々であり、個々の障害の特性に応じた、よりきめ細やかな支援を推進

<本県の障害者数の推移>



(注) ・身体障害者、知的障害者は各年度末の手帳所持者数
 ・精神障害者は各年6月末の入院、通院公費負担利用患者数

<共生社会づくりモデル地域コミュニティ認定団体>

年度	団体名	活動内容
R2	① 白山市千代野地区社会福祉協議会	誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり 障害者施設との交流を通じた活力ある地域づくり 障害のある人に優しい商店街づくり
	② 七尾市たかしな地区活性化協議会	
	③ 輪島市まんなか・ばんばざき商店会	
R3	④ 金沢市味噌蔵地区社会福祉協議会	地域と特別支援学校の交流 スポーツを通じたバリアフリーの地域づくり 障害のある人ない人の音楽交流会
	⑤ 小松ゆるスポーツ協議会	
	⑥ ボランティアグループ アンダンテ	



たかしな地区:太鼓演奏による交流



小松ゆるスポーツ協議会



シンボルマーク

<国の動向>

- ・障害者差別解消法が改正(R3.5)され、R6年5月までに民間事業者による合理的配慮の提供が「努力義務」から「義務」となる
 ※合理的配慮の提供：旅館や飲食店で車の受け入れ、手話通訳や筆談対応など

<方向性のイメージ>

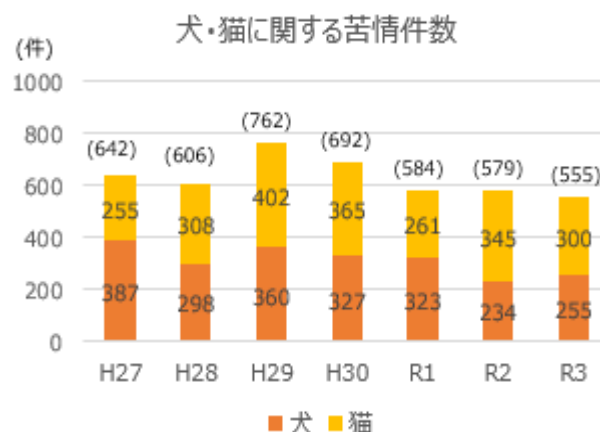
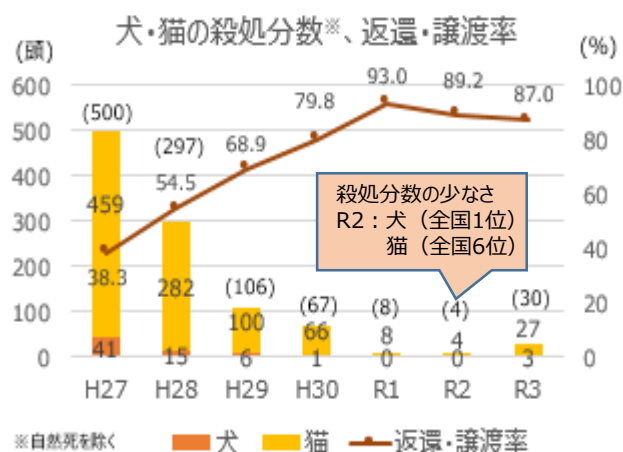
障害のある人もない人も共に暮らしやすい地域づくり

現状・課題と方向性のイメージ - 動物愛護

【現状・課題】

- ①・近年の動物愛護に対する社会意識の高まりを受け、自治体の役割が「捕獲・殺処分」から「普及啓発・譲渡推進」へと大きく変化
 - ・県内では、返還・譲渡の徹底により、犬・猫の殺処分数は全国でも極めて少ない状況。苦情件数や引取り数は近年横ばいで推移
- ②・県ではR3年9月に動物愛護管理条例を制定し、条例に掲げる施策を実行するため、新たに「いしかわ動物愛護センター」を整備（R6春開所予定）
 - ・ボランティア団体など、多様な主体と連携し、新センターを拠点として、動物愛護精神の高揚、適正飼養の普及啓発、譲渡の推進等の施策を進め、人と動物の共生する社会の実現を図る

<石川県における犬・猫の取扱状況>



<国の動向> 令和元年6月の動物愛護管理法改正により、犬・猫へのマイクロチップ装着・登録義務化、生後56日(8週)以下の犬・猫の販売制限、動物虐待罪の罰則強化 等を実施

<方向性のイメージ>

人と動物が共生することができる社会の実現

現状・課題と方向性のイメージ - 女性活躍

【現状・課題】

- ・女性の活躍推進は、少子高齢化に伴う人口減少が深刻化する中で、多様な視点によってイノベーションを促進し、経済社会に活力をもたらすものであり、企業の持続的な成長にもつながる
- ・本県は、女性の就業率が高い一方で、女性管理職率が全国平均よりも低く、女性の能力が十分に活かされていない
- ・「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識を解消し、性別にとらわれず、すべての個人が、職場でも家庭でも責任を持ち、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指す

・国の動向

「指導的地位にある人々の性別に偏りが少ないような社会」
(第5次男女共同参画基本計画、2020年12月)

「女性の経済的自立、男性の家庭・地域社会における活躍」
(女性版骨太の方針2022、2022年6月)

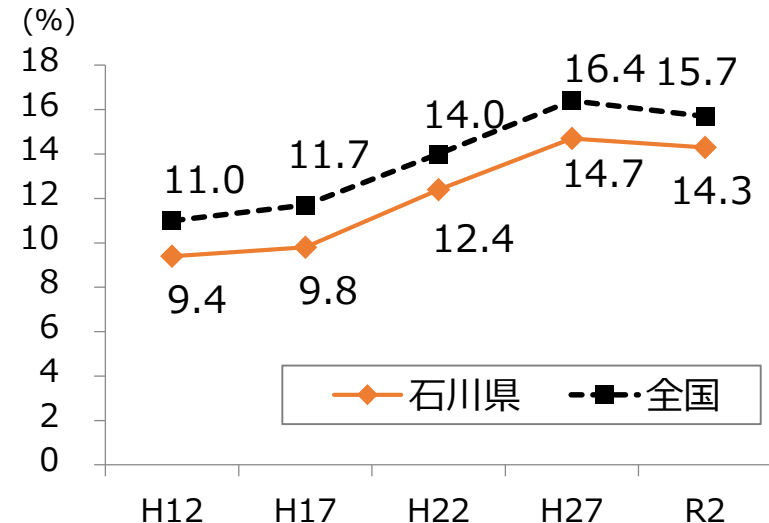
・石川県の状況

○女性の就業環境をめぐる状況

女性就業率 53.9% (R2) (全国：51.7%)
※全国3位

女性管理職率 14.3% (R2) (全国：15.7%)

・管理職に占める女性の割合 (石川県・全国)



※このグラフにおける「管理職」とは、会社役員、会社管理職員、管理的公務員等を示す。

資料：「国勢調査」(総務省統計局)

<方向性のイメージ>

男女が共に活躍できる社会の実現

現状・課題と方向性のイメージ - 人権

【現状・課題】

- ・誤った知識や偏見に基づく差別が今なお存在していることから、県民全体の人権への関心を更に高めることにより、人権尊重社会の実現を目指す
- ・本県では、様々な人権教育・啓発を推進し、あらゆる人権問題への正しい理解や認識を深めている
→女性、子ども、高齢者、障害のある人、部落差別、外国人、感染症患者、犯罪被害者、性的少数者など

【石川県の状況】

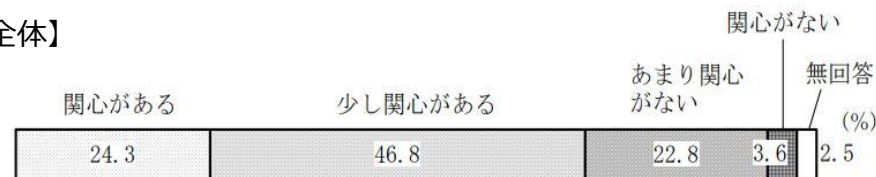
- ・「石川県人権教育・啓発行動計画」（2015年3月改訂）
- ・「新型コロナウイルス感染症に係る差別の解消の推進に関する条例」の制定（2021年3月）

【国の動向】

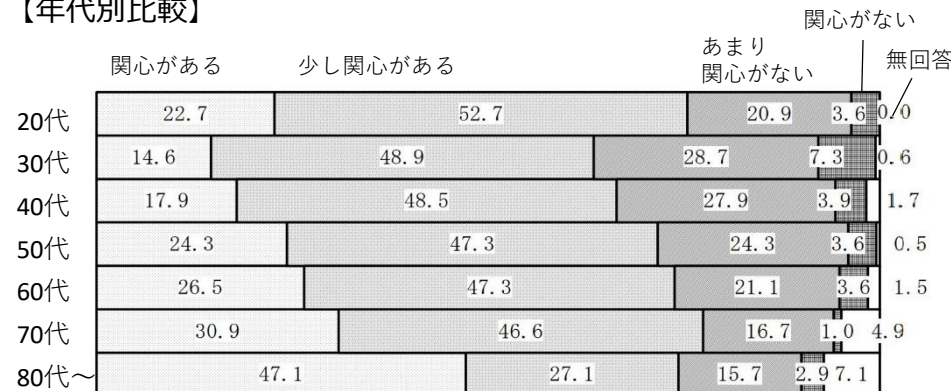
- ・「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」（2000年12月）
- ・「人権教育・啓発に関する基本計画」（2011年4月改訂）
- ・人権課題にかかる法律の制定
→ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法 等
- ・人権擁護委員等による人権侵犯事案の調査・救済

【県民の「人権」への関心】

【全体】



【年代別比較】



「人権問題に関する県民意識調査」（2015年、石川県）より

<方向性のイメージ>

差別や偏見のない心豊かな社会づくりの推進

第3期 石川の教育振興基本計画（R3～R7）

基本理念

未来を拓く心豊かな人づくり

めざす人間像

ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献する人間

生涯学び続ける意欲に満ち、確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間

責任とモラルを重んじ、人を思いやる心豊かな人間

健康や体力の増進に努める、活力ある人間

基本目標

(1) いしかわに誇りと愛着を持ち、世界と地域に貢献する人材の育成

(2) 学力を高め、社会の変化に対応できる資質・能力の育成

(3) 豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくり

(4) 信頼される質の高い学校づくり

(5) 高等教育機関の集積を活かした「学都石川」の魅力向上

(6) 社会全体で家庭や地域の教育力の向上

(7) 生涯にわたり学び続ける環境づくり

(8) ライフステージに応じたスポーツ活動の充実

現状・課題と方向性のイメージ – 教育（人材育成）

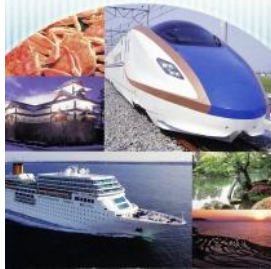
【現状・課題】

- グローバル化や急速な技術革新の進展、人々の価値観の多様化に加え、コロナ禍など社会が大きく変化
→ <次代を担う人材に求められる資質・能力>
 - 郷土に対する誇りと愛着を礎に、地域の発展に貢献する態度
 - 独創性を持って新たな価値を創出する力、科学的に課題へ取り組む姿勢
 - 文化の異なる人々の多様性を受容し尊重する態度、幅広い教養や視野

【新学習指導要領（小中高等学校）】

- 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視
- <重視する内容>
 - プログラミング教育
 - 外国語教育
 - 道徳教育
 - 言語能力の育成
 - 理数教育の充実
 - 伝統や文化に関する教育
 - 主権者教育
 - 消費者教育
 - 特別支援教育

ふるさと石川 [第3版]



石川版教科書
「ふるさと石川」
による授業



地場産物や郷土食を
取り入れた学校給食



県内大学と連携した
体験授業



県内大学の留学生が
授業に参加



海外の大学生との交流
授業

<方向性のイメージ>

いしかわに誇りと愛着を持ち、世界と地域に貢献する人材の育成

現状・課題と方向性のイメージ – 教育（学力①）

【現状・課題】

- 学力向上に向けた中長期的な指針「いしかわ学びの指針12か条」等に基づいた、確かな学力の育成
- GIGAスクール構想による主体的・対話的で深い学びの実現
- 学校での学びと実社会との結び付きを意識し、主体的に進路を選択できる力や勤労観・職業観の育成
- 障害の有無に関わらず、誰もが相互に尊重し支え合う共生社会を目指した、インクルーシブ教育の展開

【R4全国学力・学習状況調査（石川県）】 全科目で全国トップクラス

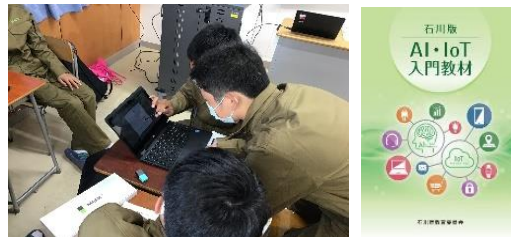
小学6年 国語：2位 算数：1位 理科：2位
中学3年 国語：1位 数学：1位 理科：1位

- 県独自の基礎学力調査
- 金沢大学と連携した全国学力調査結果の分析、授業改善

【キャリア教育の充実】



炭素繊維を利用した
ソーラーカーラジコン



石川県版AI・IoT入門教材の活用
(県立高校工業科の1年生)

- 企業や大学等と連携し、社会・産業の課題解決を目指す先進的、実践的な学び
- 企業と連携したアントレプレナーシップ教育（企業家教育）

【ICTを活用した個別最適な学び】



8割以上の児童生徒がICT機器を使っての勉強に好意的
(R4基礎学力調査（小6、中3対象）)

(R2～R3)

- 児童生徒1人1台端末と大容量の通信ネットワークの整備

(R3)

- 管理職、推進リーダー向け研修
- GIGA出前サポートなどによる教員の指導力向上

(R4)

- 高等学校において、11の教科ごとにプロジェクトチームを編成

（次ページに続く）

現状・課題と方向性のイメージ - 教育（学力②）

【特別支援学校在籍の知的障害のある児童生徒数】

いしかわ特別支援学校（知肢併設）	<知的障害のみ>
H20 242人 → R4 432人	<u>1.79倍</u> < <u>3.05倍</u> >
明和特別支援学校（知肢併設）	
H22 251人 → R4 362人	<u>1.44倍</u> < <u>1.62倍</u> >

専門的指導や就労支援を期待する保護者の増加などを背景に、
全国と同様に増加傾向（特に県央地区に顕著）

- ・金沢向陽高校敷地内にいしかわ特別支援学校知的障害部門高等部新校舎の建設（R7開校予定）
- ・両校の生徒が日常の様々な場面で交流する本格的なインクルーシブ教育

外観イメージ



- ### <インクルーシブ教育に向けた工夫>
- ・両校の「生徒玄関」の共用化
 - ・金沢向陽高校生徒の利用も想定した「食堂スペース」の確保
 - ・両校生徒と地域住民の交流を促す「地域交流スペース」の設置

【インクルーシブ教育の推進（イメージ）】

<授業>



- ・体育の合同授業として、ニュースポーツ「キンボール」を実施
- ・ルールが分かりやすい競技であれば、運動量も同等であり、十分に体育の合同授業が可能

<部活動>



- ・いしかわ特支サッカー部 8名と金沢向陽サッカー部 4名が合同練習
- ・普段の人数ではできない連携プレー等の練習ができた

<地域との交流>



- ・「学校合同企画」での催し
いしかわ特支：焼き菓子販売
金沢向陽：軽音楽同好会の演奏
- ・森本町の振興会や協議会の協賛のもと、森本小・北陵高も参加

<方向性のイメージ>

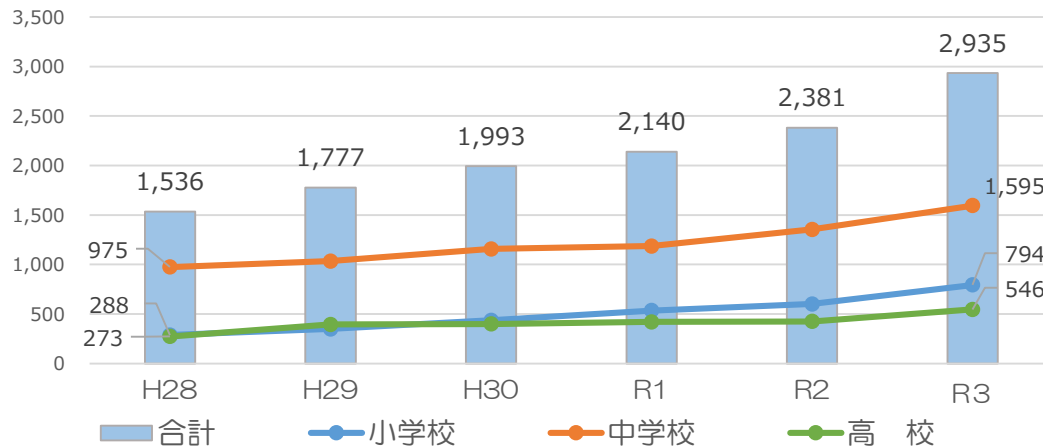
学力を高め、社会の変化に対応できる資質・能力の育成

現状・課題と方向性のイメージ – 教育（人づくり）

【現状・課題】

- 不登校児童生徒数は全国と同様に増加、不登校の未然防止と早期発見・対応
- 社会全体のICT化の進行に伴うSNSやネット上のトラブルやいじめなどに対する情報モラル教育の充実

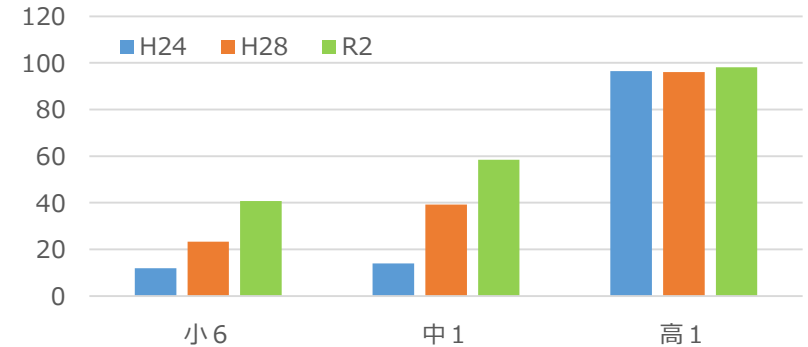
【県内公立学校における不登校児童生徒数（人）】



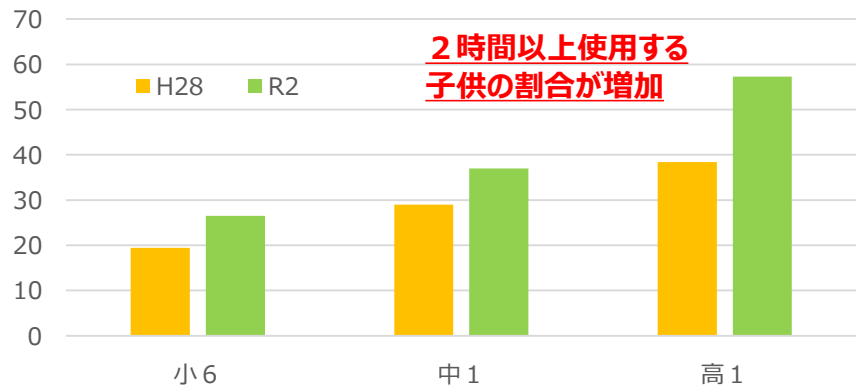
出典：石川県児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

- 全小中高等学校へのスクールカウンセラーの配置
- 教育支援センター（適応指導教室）を県・市町で18か所開設
- 不登校児童生徒の保護者同士の交流会の開催（県内3会場）
- インターネットに潜む危険から子供を守るための啓発パンフレットの配付（年長児～高校生の子供をもつ全保護者）

【スマートフォン・携帯電話の所有率（％）】



【2時間以上利用している子供の割合（平日1日あたり）（％）】



出典：石川県「R2インターネット・スマートフォン等に関する調査」

<方向性のイメージ>

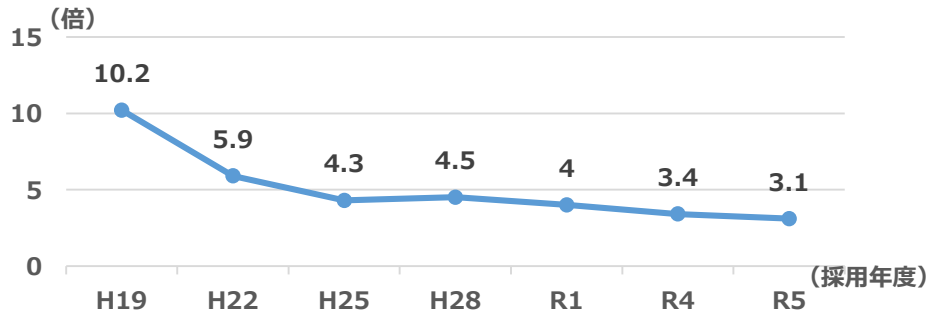
豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくり

現状・課題と方向性のイメージ – 教育（教育環境）

【現状・課題】

- ・ 教員の大量退職・採用に伴う世代交代と採用倍率低下が進む中、教育力の維持向上と人材確保が急務
- ・ 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロなどを目標とした、教職員の多忙化改善の推進
- ・ 様々な事情で義務教育を修了できなかった方や外国人住民など多様な教育ニーズへの対応
- ・ 学校施設の長寿命化やICT環境の整備など教育環境の整備・充実
- ・ 建学の精神に基づく特色ある学校づくりを尊重した私学の振興

【石川県公立学校教員採用試験倍率】



- ・ 教員を目指す学生等への質の高い研修「いしかわ師範塾」（H25～）
- ・ 若手からベテランまでキャリアステージに応じた教員研修

【夜間中学開設に関するニーズ調査（R4.8月～9月の結果）】

- ・ 夜間中学で学んでみたい：51人
→理由：もう一度学び直したい 48人
年齢層：50歳代以上 31人
- ・ 夜間中学のことを知らせたい人が周囲にいる：77人

夜間中学のニーズは一定程度あり

【時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合】

	H29		R1		R3
小学校	10.4%	→	5.8%	→	3.0%
中学校	36.2%	→	25.7%	→	14.4%
全日制高校	13.8%	→	5.9%	→	2.9%

<取組例>

- ・ H30「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」策定
- ・ ペーパーレス化など授業や校務のICT化の推進
- ・ 教員業務支援員の配置など外部人材の活用
- ・ 部活動の休養日や活動時間の目安の設定

【県立学校の状況（R3末）】

築50年以上：26.4% 築40年以上：46%（面積ベース）

- ・ 計画的な大規模修繕（H29耐震化完了）
- ・ 教室への空調整備
- ・ トイレの洋式化、手洗い場の自動水栓化（R5完了予定）
- ・ 産業教育設備の整備（R2国事業「スマート専門高校」の実現）

<方向性のイメージ>

信頼される質の高い学校づくり

温もりのある社会・人づくりの方向性のイメージ

分野	方向性のイメージ
医療	必要な医療がしっかりと提供される地域社会づくり
少子化対策・子育て	安心して子どもを産み育てることができる社会の実現
高齢者対策	高齢者が安心して暮らせる社会づくり
健康	元気で自立して暮らすための健康づくり
障害者福祉	障害のある人もない人も共に暮らしやすい地域づくり
女性活躍	男女が共に活躍できる社会の実現
人権	差別や偏見のない心豊かな社会づくりの推進
教育	いしかわに誇りと愛着を持ち、世界と地域に貢献する人材の育成
	学力を高め、社会の変化に対応できる資質・能力の育成
	豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくり
	信頼される質の高い学校づくり

- ・あらゆる分野におけるデジタル技術の活用
- ・持続可能な社会（カーボンニュートラル等）の実現に向けた取り組み
- ・ウィズコロナ、アフターコロナにおける新しい生活様式への対応 など

**新たな時代の潮流を踏まえ、今後（10年程度先）
石川県はどのような方向性を目指していくべきか**